

## 授業展開案 高等学校情報「社会と情報」

## 1 テーマ

表計算ソフトの理解度確認

## 2 ICT利活用のねらい

表計算ソフトは、対話形式で関数や機能を選びながら使用できるため、簡単に扱うことができる。しかし、それを活用するためには関数や機能のある程度は理解し、覚えておく必要がある。そこで、表計算ソフトの関数や使用法等について、学習者用端末上でドリル形式の問題を解かせることにより、知識の定着をはかる。

## 3 利活用する ICT 機器及びソフトウェア

①機器：学習者用端末

②教材：「表計算確認テスト.xlsm」(Microsoft Excel 2010 VBA)

※教材の取扱方法については、「確認テスト取扱マニュアル.docx」を参照

## 4 ICT利活用の場面

学習内容	ICT利活用の場面
○表計算ソフトの関数や使用方法について、小テストを行う。	①理解度の確認：「表計算確認テスト」を活用し、小テストを行う。出題条件を「正答率100%以下」「出題数制限なし」に設定して実行させることにより、理解度を確認することができる。
○自学用教材として活用する。	②反復学習：過去の正答率を指定（0%～100%）し、それ以下の問題のみ抽出して出題できるため、効率よく学習できる。

## 5 ICT利活用のポイント

①理解度の確認

- ・正答率が表示されるため、生徒の理解度が確認できる。

②反復学習

- ・問題がランダムに出題され、語群の並びもランダムに配置されるため、何度も繰り返して学習できる。
- ・出題終了後、間違った問題のみ再出題することが可能であるため、効率よく復習できる。
- ・過去の出題履歴とその問題の正答率がチェックでき、苦手な問題が明確になる。